

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 23 年 7 月 21 日 (2011.7.21)

【公表番号】特表 2008-509032 (P2008-509032A)
 【公表日】平成 20 年 3 月 27 日 (2008.3.27)
 【年通号数】公開・登録公報 2008-012
 【出願番号】特願 2007-524239 (P2007-524239)
 【国際特許分類】

B 6 2 J 1/08 (2006.01)

B 6 2 J 1/00 (2006.01)

【 F I 】

B 6 2 J 1/08 A

B 6 2 J 1/00 B

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成 23 年 5 月 31 日 (2011.5.31)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲
 【訂正対象項目名】全文
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

自転車のサドルシェルの長手方向対称面に関して完全に対称な 2 つの部分 (1 '、1 ") を備える自転車のサドルシェル用の支持レールにおいて、

前記部分の両方は、前記自転車のサドルシェルに取り付けられた後でその取付位置に関して、水平に配置される第 1 端区画 (5 '、5 ") を有しており、

下向きに傾斜する第一の区画 (6 '、6 ") は、前記第 1 端区画 (5 '、5 ") からのびており、

、水平方向に配置されるか又は最大角度 5 ° で上向きに傾斜する第二の区画 (7 '、7 ") は、前記第一の区画 (6 '、6 ") からのびており、

前記第 1 端区画 (5 '、5 ")、前記第一の区画 (6 '、6 ") 及び前記第二の区画 (7 '、7 ") の全体は、S 字形の構造を構成しており、

直線の第三の区画 (8 '、8 ") は、前記第二の区画 (7 '、7 ") からのびており、前記第三の区画 (8 '、8 ") は、外向きに傾斜し、その後、前記自転車のサドルシェル用の支持レールの長手方向中心線に向かって互いに近付いており、

第四の区画 (9 '、9 ") は、前記第三の区画 (8 '、8 ") の最上部からのび、今度は内向きに転じて、前記第三の区画 (8 '、8 ") と共に L 字形の構造を形成しており、

直線の第五の区画 (10 '、10 ") は、前記第四の区画 (9 '、9 ") からのびており、前記第五の区画 (10 '、10 ") は、一つの半円構造 (11) によって互いに繋がれていて、前記半円構造の下方の頂点は、前記長手方向中心線上に位置しており、

前記自転車のサドルシェル用の支持レールは、前記第四の区画 (9 '、9 ") 及び前記第五の区画 (10 '、10 ") が前記自転車のサドルシェルの取付構造 (14 '、14 ") のチャンネル (15 '、15 ") の中に配置されることにより、固定することができることを特徴とする、自転車のサドルシェル用の支持レール。

【請求項 2】

請求項 1 による 自転車のサドルシェル用の支持レール及び自転車のサドルシェルの組立体において、

前記自転車のサドルシェルは、その下面の後部に、台形の周辺を有する 2 つの 角柱の構

造（１４'、１４"）があり、それぞれが、その表面にチャンネル（１５'、１５"）を有しており、その内側には、前記第四の区画（９'、９"）及び前記第五の区画（１０'、１０"）が収容されており、

更に、前記２つの角柱の構造（１４'、１４"）のそれぞれには、カバープレート（１６'、１６"）が、前記第四の区画（９'、９"）及び前記第五の区画（１０'、１０"）を覆って、前記カバープレートと前記角柱の構造の間に前記第四の区画（９'、９"）及び前記第五の区画（１０'、１０"）を包み込むように配置され、前記カバープレートは、それぞれ複数の穴（１７'と１７"）を有しており、前記複数の穴（１７'と１７"）に、前記自転車のサドルシェルにねじ込むことのできるセルフタッピングねじを挿入して、前記カバープレート及び前記自転車のサドルシェル用のレールを、前記自転車のサドルシェルの下側に安定して固定することができるようにしていることを特徴とする、組立体。

【請求項３】

全長が、１６－２０ｃｍである、請求項１に記載の自転車のサドルシェル用の支持レール。

【請求項４】

前記角柱の構造（１４'、１４"）の各辺の長さは、１．５－２ｃｍであることを特徴とする、請求項２に記載の組立体。

【請求項５】

７ｍｍの直径を有する円形の断面を有することを特徴とする、請求項１又は３に記載の自転車のサドルシェル用の支持レール。

【請求項６】

２つの前記カバープレート（１６'、１６"）は、前記カバープレートがそれぞれの座に取り付けられた後で、識別又はナンバープレートと同様の様式で、前記自転車のサドルシェルの後部に配置される小さなブリッジプレート（１８）によって、互いに接続されることを特徴とする、請求項２又は４に記載の自転車の組立体。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００１５

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００１５】

構造は、その後、２つの別の区画９'と９"により２つの先の区画の最上部に延びており、今度は内向きに転じて、２つの先の区画と共に、基本的にＬ字形の形状を形成している。構造は、２つの先の区画の端部で、２つの短い直線区画１０'と１０"に延びており、区画１０'と１０"は、一つの半円構造１１によって互いに繋がれていて、半円構造１１の下方の頂点は、正確に装置の長手方向中心線上に位置している。

【誤訳訂正３】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００１７

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００１７】

逆に、装置の後部は、特別に革新的な様式でシェルに固定されており、図５を参照しながら詳細に説明する。

実際、念入りに確認すると、これらの図面は、シェル１３の下面の後部に、基本的に台形の外周を有する２つの角柱の構造１４'と１４"があることを示している。これらの不等辺四辺形の各辺は、長さが約１．５から２ｃｍである。

【誤訳訂正４】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 1 8

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 8 】

具体的に言えば、図 4 に示す様に、レールの区画 9 ' と 1 0 ' (並びに 9 " と 1 0 ") の大部分は、前記角柱の構造の表面に在るチャンネル 1 5 ' と 1 5 " の中に設置される。

レールの対応する区画を所定の位置に堅く取り付けて維持するために、2つのカバープレート要素 1 6 ' と 1 6 " (図 8) が、レールの区画の上に配置され、それらをカバープレートと角柱の構造の間に包み込むようになっている。